

北海道東神楽町～「北の子ども王国・東神楽町」の高齢化対策と産業振興策～

- 東神楽町は、「40年間、人口増加が継続」、「子どもの割合が15年連続で北海道内1位」という特長を有するとともに、「就航率99.1%を誇る旭川空港が立地」する自治体である。
- 一方、今後は人口減少や高齢者割合の増加から、単なる「高齢者の町」、「旭川空港がある町」になるとの懸念がある。
- そこで、懸念される人口減少、高齢化などの問題に対して、東神楽町が地域の産学官金の関係者と住民も交えて、今後の東神楽町における政策のあり方について意見交換を実施した。

実施概要

日時：平成30年10月30日（火）

会場：東神楽町ふれあい交流館2階 大会議室

参加者：59名

（東神楽町山本町長、木村副町長、同町職員、観光協会、商工会、農協、大学、金融機関等）

有識者：中央大学

総合政策学部 教授 細野助博氏

使用したRESASデータ：

人口構成、将来人口推計、産業構造マップ等

その他利用したデータ：

労働力調査結果（総務省統計局）

平成28年10月27日財政制度等審議会財務省提出資料(抜粋)（総務省ホームページ）等

現状分析：人口減少および高齢化と、産業構造についての現状と課題

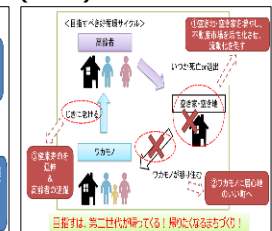
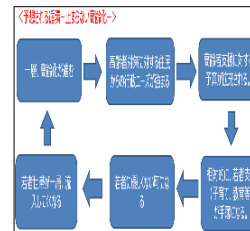
- 現在、東神楽町は高齢者割合が全道・全国平均と比較して低い。しかし、今後、その割合が上昇し、高齢者支援が増加して、若者支援が手薄な町（若者に優しくない町）になるおそれがある（図1）。
- 東神楽町は空き地・空き家が少なく、人の退出や新規参入という循環サイクルの硬直化が起きやすい。若者（第二世代）が流入・還流できる環境と文化づくりが大切である（図2）。
- また、東神楽町では企業数が少ない上、減少傾向にあるため、企業の「寡占」が生じ、企業競争力がつかない環境下にあることが覗える（図3）。

（図1）

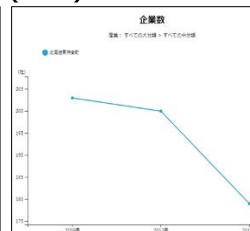


東神楽町の老年人口比率は現在、24.3%（全国27.3%、全道30.5%）だが、'40年には40%を超える見込。

（図2）



（図3）



意見交換会での主な意見：東神楽町における政策のあり方の方向性

- 町内では、子どもの頃から東神楽の魅力の頭に植え付ける取組（東神楽ファンづくり）が必要である。
- 町外には、旭川空港が自然災害に強いという点を今以上にアピールし、乗降客を増やすとともに、その受け皿（道の駅や創業支援による企業立地）を整備することで、人々の還流につなげていくべき。
- 行政と民間の協働とともに、その役割分担（東神楽町単体、広域連携、異業種・異年齢間連携など）が重要であり、町内で検討・チャレンジしていく文化醸成と、その対外PRも大切である。

自治体による分析発表の様子 参加者間の意見交換の様子

